

ふじみ野市
認知症ヒアリング調査
【結果報告書】

令和8年3月
ふじみ野市

目 次

第Ⅰ部 調査の概要.....	1
1 調査の概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査対象者.....	1
(3) 実施概要.....	1
(4) 回収結果.....	1
(5) 報告書を見る際の注意点.....	1
第Ⅱ部 調査結果のまとめ.....	2
1 認知症ヒアリング調査【本人調査】について.....	2
2 認知症アンケート調査【家族調査】について.....	3
第Ⅲ部 調査結果.....	4
1 認知症ヒアリング調査【本人調査】.....	4
2 認知症アンケート調査【家族調査】.....	13
第Ⅳ部 資料編（使用した調査票）.....	23

第 I 部 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、「第 10 期ふじみ野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の策定と併せて「認知症施策推進計画」を策定するに**当たり**、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりに向け、介護サービスや高齢者施策を利用されている**人**の意見や、認知症の**人**の介護を経験している**人**の意見を把握し、今後の施策検討の基礎資料とすることを目的に実施するものです。

(2) 調査対象者

- 市内在住の**在宅で生活する認知症（疑いを含む）当事者** 32 人（地域包括支援センター及び市において、個別支援や認知症カフェ（オレンジカフェ）等で関わりのある人から抽出）
- 市内在住の**認知症の人を介護している人及び介護経験のある人** 31 人（地域包括支援センター及び市において、個別支援や認知症カフェ（オレンジカフェ）等で関わりのある人から抽出）

(3) 実施概要

- 調査地域：ふじみ野市全域
- 調査形式：**本人調査は、対面による聞き取り調査**
家族調査は、アンケート調査
- 調査方法：**直接配付・直接回収または郵送回収**、一部対面による聞き取り調査
- 調査期間：**令和 7 年 2 月 1 日～令和 7 年 6 月 30 日**

(4) 回収結果

調査区分	配付件数	有効回答数	回収率
①本人調査	32 件	32 件	100.0%
②家族調査	31 件	31 件	100.0%

(5) 報告書を見る際の注意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位までを示しているため、その合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表しています。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は 100.0%を超える場合があります。
- 図表及び文章中では、選択肢を一部省略している場合があります。

第Ⅱ部 調査結果のまとめ

1 認知症ヒアリング調査【本人調査】について

本人調査の回答者は、70歳代から80歳代で構成され、特に80～84歳が最も多く、性別では男女に大きな偏りはみられません。同居家族の状況では、独居または配偶者等との少人数世帯が全体の約7割を占めており、家族による日常的な支援が限られる環境で生活している人が多いことがうかがえます。要介護認定については、要支援1・2、要介護1の比較的軽度な認定者で構成されています。

生活のしづらさ、不安や困りごとについては、約4割が「はい（ある）」と回答しており、その内容は、外出時の不安、転倒への不安、物忘れによる生活のしづらさ、経済的な不安など、多様な課題が挙げられています。

相談先については、「はい（ある）」が約8割と、配偶者や子どもといった家族に加え、ケアマネジャーや医療・介護関係者、友人や近隣住民などが挙げられています。一方で、自身の気持ちや意見を十分に伝えられていないと感じている人は約3割と一定数存在しており、本人の思いを丁寧に受け止める関係づくりが重要であることがうかがえます。

趣味や活動については、約6割が「はい（ある）」と回答しており、その内容は、散歩、読書、創作活動、デイサービスなど、日常生活の中で楽しみを見出している様子がうかがえます。一方で、地域の中での役割や生きがいがあると回答した人は2割程度にとどまっており、地域活動や社会参加の機会が十分に確保されていない状況がうかがえます。本人からは、「今は自分のことで精一杯」「体調面から難しい」といった声が挙げられており、無理のない形で関われる役割や居場所が求められています。

自分に合ったサポート（医療や福祉サービス等）を受けられていると感じている人は8割を超えており、既存のサポートが機能していることがうかがえます。一方で、地域の支えとしては、「同年代の人が集い気軽に立ち寄り交流できる場」「話し相手」「災害時などの安否」を求める声が多くなっています。

認知機能が低下しても安心して暮らせるまちについては、「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせる」が最も多く、本人の尊厳や自立を尊重した支援が求められています。また、「自分に合ったサポート（医療や福祉サービス等）を受けることができる」「不安や困りごとを相談できる体制がある」が上位に挙げられていることから、切れ目のない相談・支援体制が求められています。

自由記述では、「デイサービスが楽しみ」「自分で動きたい」「集える場所がたくさんあるとよい」といった前向きな意見が多くみられる一方で、「話す人がいない」「同年代と話したい」といった孤立感や不安を示す声も寄せられています。これらの意見から、認知症施策の展開に当たっては、介護サービスの提供にとどまらず、本人が安心して外出し、交流し、気軽に立ち寄れる居場所や集いの場を、地域に点在させていくことが重要であると考えられます。また、本人の「やりたいこと」「続けたいこと」を尊重した支援の展開が、認知症になっても自分らしく暮らし続けられるまちの実現につながると考えられます。

2 認知症アンケート調査【家族調査】について

家族調査の回答者は、70 歳代と 80 歳代で約 6 割を占めており、一定数 40 歳代から 60 歳代も含まれている構成となっています。本人との続柄では、「配偶者（夫・妻）」が最も多く、次いで「同居の子」が続いており、主に家族内で日常的な介護や見守りを担っている立場の人が回答者となっていることがうかがえます。

最初に認知症に気付いた人については、「配偶者」が最も多く、次いで「同居の子」「本人」となっており、日常的に接している身近な家族が変化を察知するケースが多くなっています。また、家族や親せき、友人以外で最初に認知症について相談したところについては、「かかりつけ医」や「医師・歯科医師・看護師」「高齢者あんしん相談センター」が多くなっていることから、認知症の疑いが生じた際には、身近な医療機関や高齢者あんしん相談センターに相談するという傾向がみられます。

医療機関を受診するまでにかかった期間については、1 年以上を要しているケースも多くみられます。その理由としては、「年齢によるものかもしれない様子を見ていた」「どの医療機関、診療科に受診をすればよいか分からなかった」が多いことから、家族が判断に迷いながら経過観察を続けているという状況がうかがえます。

利用したい支援については、「話し相手」「必要な窓口の紹介」「認知症カフェ、居場所への参加」「地域コミュニティへのつながり維持」が多く挙げられており、介護サービスだけでなく、心理的な支えや社会的なつながりを求めるニーズが高いことがうかがえます。また、市の認知症支援の認知度については、「高齢者あんしん相談センター」「認知症カフェ（オレンジカフェ）」が高くなっています。

介護において困っていることについては、「介護のストレスや今後の不安など精神的な負担が大きい」「介護にかかる身体的な負担が大きい」「介護にかかる経済的な負担が大きい」がいずれも高い割合を占めており、特に精神的負担の大きさが突出して高くなっています。家族が長期にわたり介護を担う中で、先の見通しが立たない不安や、介護者自身の生活や健康への影響が大きな課題となっていることがうかがえます。

重点を置くべき認知症施策については、「認知症の人が活動できる場、居場所の確保」が最も多く、次いで「早期発見・早期支援のための仕組みづくりや相談体制の充実」「医療・介護が連携した適切な支援のための仕組みづくり」が続いていることから、本人の状態に応じた居場所づくりと、早期から切れ目のない支援につながる仕組みを一体的に整備していくことが重要であると考えられます。

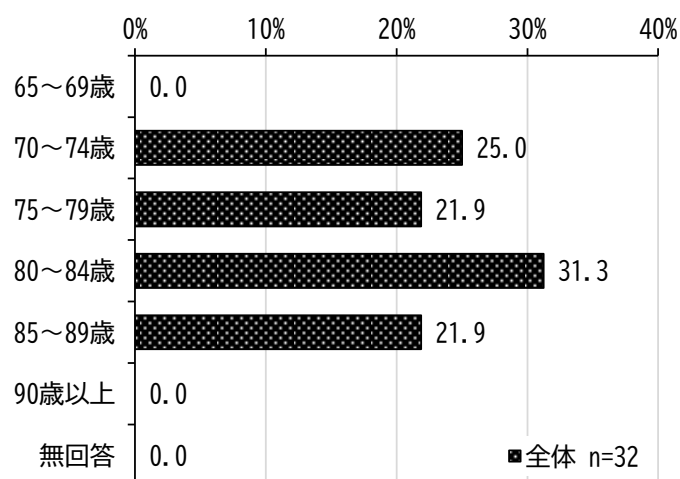
自由記述では、認知症と診断された直後の戸惑いや不安、介護の長期化に伴う心身の負担、将来への不安など、家族の切実な思いが多く寄せられています。一方で、高齢者あんしん相談センターやケアマネジャー、医療機関、家族会等につながったことで安心感を得られたとの声もみられます。認知症施策の展開に当たっては、切れ目のない相談支援体制の構築に加え、介護者が気持ちを支えられる場や本人の状態や希望に応じた居場所・活動の選択肢を確保していくことが、本人と家族を支える上で重要であると考えられます。

第Ⅲ部 調査結果

1 認知症ヒアリング調査【本人調査】

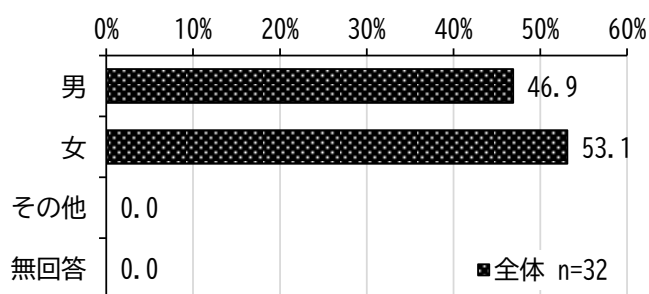
F 1 年齢

年齢については、「80～84 歳」が 31.3%で最も高く、次いで「70～74 歳」が 25.0%、「75～79 歳」「85～89 歳」がともに 21.9%となっています。



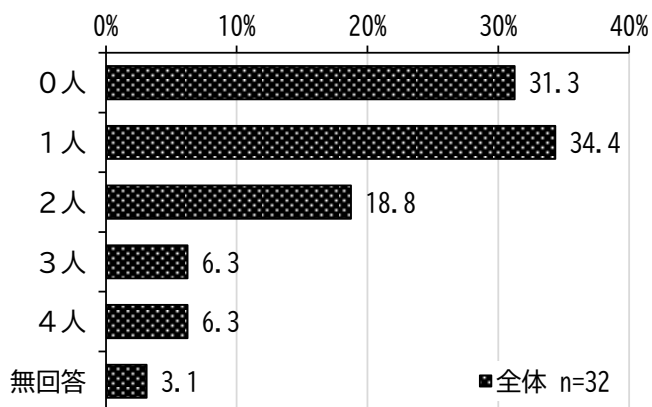
F 2 性別

性別については、「男」が 46.9%、「女」が 53.1%となっています。



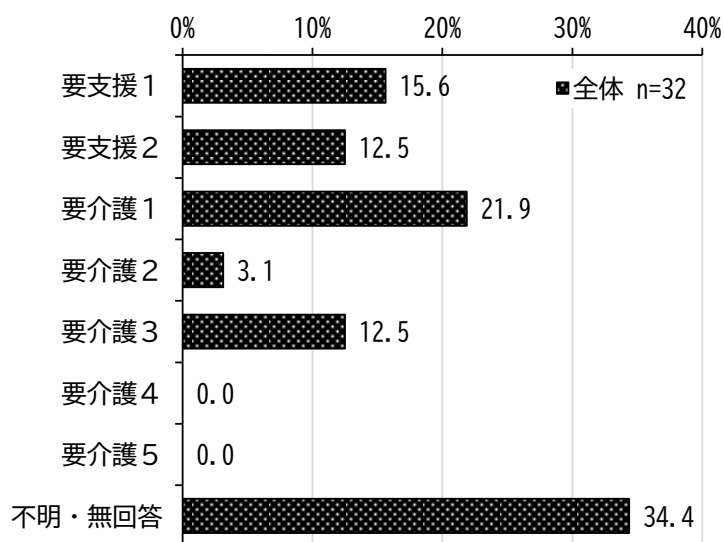
F 3 同居家族の人数

同居家族の人数については、「1人」が34.4%で最も高く、次いで「0人」が31.3%、「2人」が18.8%となっています。



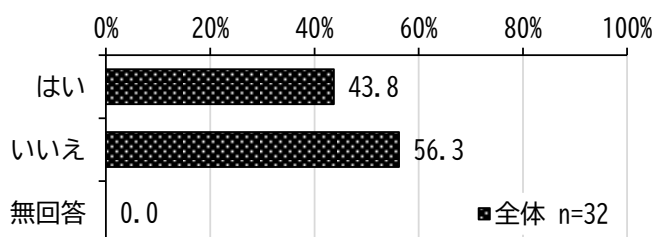
F 4 要介護認定

要介護認定については、「要介護1」が21.9%で最も高く、次いで「要支援1」が15.6%、「要支援2」「要介護3」がともに12.5%となっています。



問1 日々の中で感じる生活のしづらさ、不安や困りごとはありませんか。(1つのみ)

生活のしづらさ、不安や困りごとの有無については、「はい」が43.8%、「いいえ」が56.3%となっています。



【「はい」と回答した方の生活のしづらさ、不安や困りごとの内容】

日常生活や外出等について

- 外出の際、家族と一緒にに行く必要がある。一緒に行った家族とはぐれてしまう不安がある。
- ほしいものを買うことができない。
- 携帯電話の操作、買い物の精算時（レジ）に不安がある。
- 家族の帰りが遅いとき、食事が待ちきれない。一人では、お風呂に自由に入ることもできない。
- 転居する必要があるが、転居先の物件が見つからない。
- 家族とのコミュニケーションが取れなかったり、怒られたりしてしまう。

健康状態について

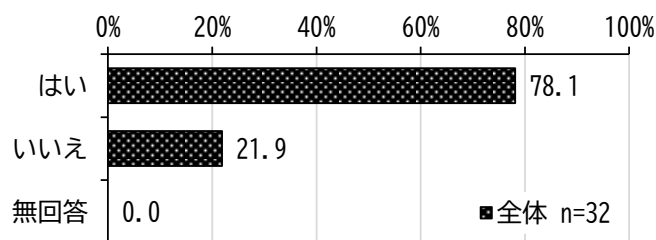
- 足元のもつれやふらつきによる転倒。認知症が進行することへの不安。覚えようとしても忘れてしまう。
- 歩行困難やがんなど、認知症以外の病気も抱えている。
- （一人暮らしのため）体調が悪く不安。万が一、倒れてしまったあとのことも心配。

生活環境について

- 勝手に部屋に入られたり、部屋の物をいじる人がいること。なくなった物を探さなくてはならない。
- 経済的な不安がある。
- 騒音被害や近所の人の話し声、工事の音が気になっている。

問2 身近に何でも気軽に相談できる人はいますか。(1つのみ)

相談できる人の有無については、「はい」が78.1%、「いいえ」が21.9%となっています。



【「はい」と回答した方の相談できる人は誰か】

妻、夫

娘、息子

姉、妹

ケアマネジャー

看護師

事業所職員

地域の集まりの場で会う仲間

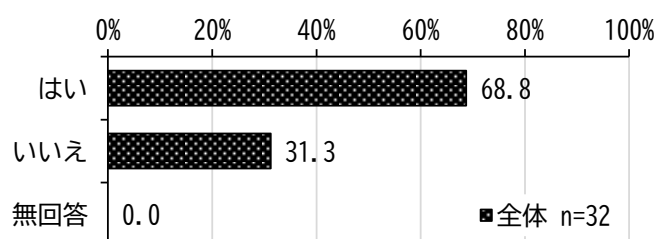
近所の人

友人

一緒に働いていた仲間

問3 周りの人に自分の気持ちや意見を言うことはできますか。(1つのみ)

自分の気持ちや意見を言うことができるかについては、「はい」が68.8%、「いいえ」が31.3%となっています。



【「はい」と回答した方の自分の気持ちや意見を言う相手】

店員

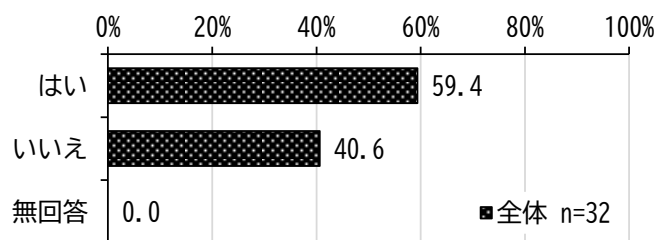
デイサービスの介護者

家族

子ども

問4 日頃から楽しんでいる趣味や活動などがありますか。(1つのみ)

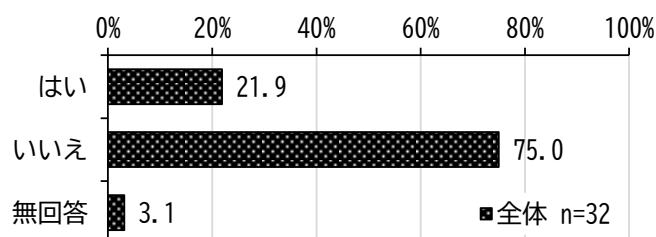
趣味や活動の有無については、「はい」が59.4%、「いいえ」が40.6%となっています。



【「はい」と回答した方の趣味や活動内容】	【左記の趣味や活動を生かす機会や場所】
店員との交流	店舗
散歩（自転車）	
デイサービス	デイサービス
麻雀、グラウンドゴルフ、散歩	
ラジオを聴くこと、生け花	
旅行	
読書	図書館、書店
創作活動	
カラオケ、友人との会話	カラオケ、デイサービス、自宅周辺の散歩
ふじみんぴんしゃん体操	地域の自主グループ
読書、新聞	
麻雀	デイサービス
テレビでの野球、マラソン、駅伝の観戦	
将棋や絵	デイサービス
他者との会話	毎週の（地域の）集まり
グラウンドゴルフ大会など、所属している地域の団体の活動	地域の団体
庭の草むしりや菜園、ガーデニング	自宅
パズル、ゲーム、外出など	利用している施設

問5 地域の中で役割や生きがいがありますか。(1つのみ)

地域の中での役割や生きがいの有無については、「はい」が21.9%、「いいえ」が75.0%となっています。



【「いいえ」と回答した方の具体的な理由】

地域との関わりがわずらわしいため

心身の状態（認知症、その他病気）から難しい

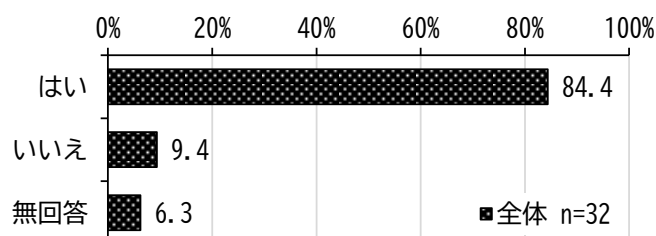
経済的な課題のため

自分のことで精一杯

趣味がないため

問6 自分に合ったサポート（医療や福祉サービス等）を受けることができますか。(1つのみ)

自分に合ったサポートを受けられているかについては、「はい」が84.4%、「いいえ」が9.4%となっています。



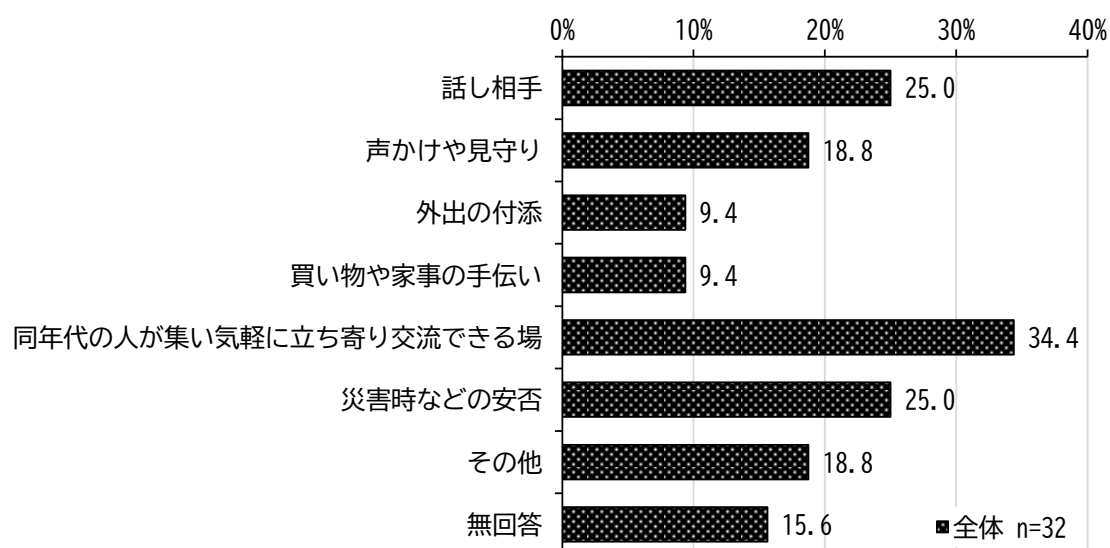
【「いいえ」と回答した方の具体的な理由】

体調に問題がないため

希望する住宅に住めていないため

問7 地域の支えとしてあったらいいと思うものはありますか。(いくつでも)

地域の支えとしてあるといいと思うものについては、「同年代の人が集い気軽に立ち寄り交流できる場」が34.4%で最も高く、次いで「話し相手」「災害時などの安否」がともに25.0%、「声かけや見守り」が18.8%となっています。



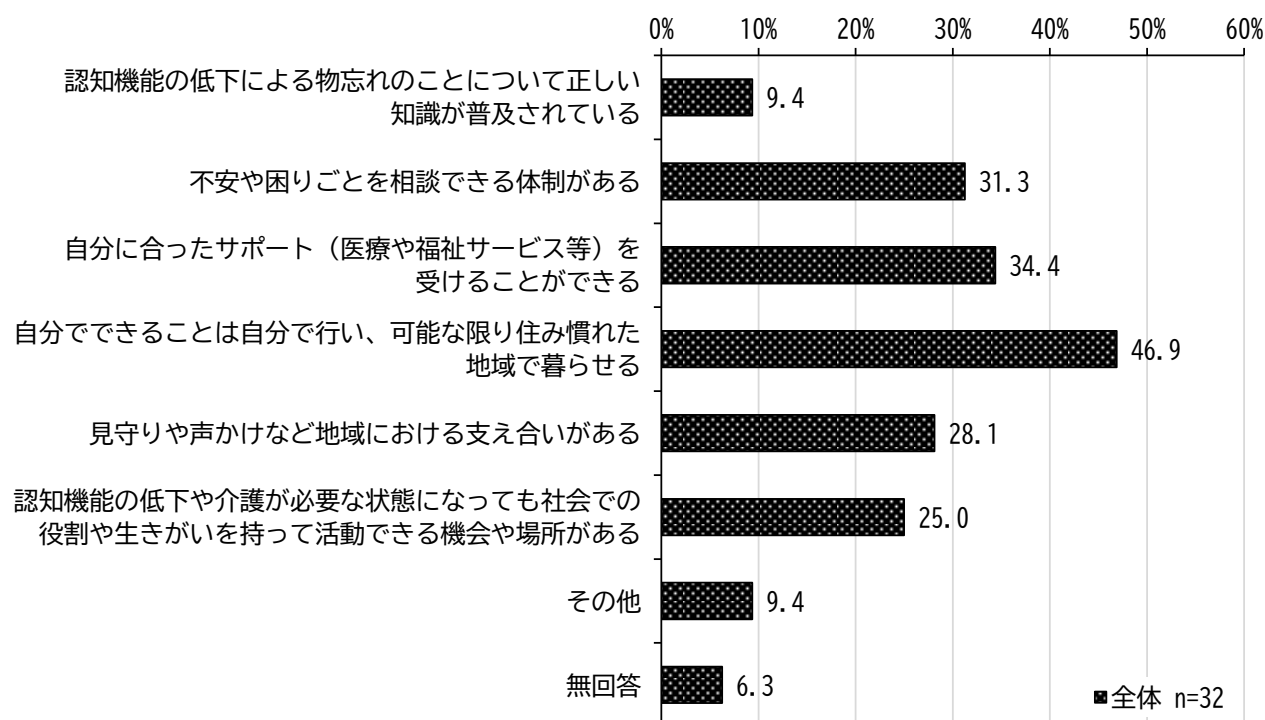
【「その他」の内容】

家族からのサポートが受けられているので特に必要ない。

一歩も外に出ることはできないため

問8 認知機能が低下したとしても、安心して暮らせるまちとは、どのようなまちですか。
(いくつでも)

認知機能が低下しても安心して暮らせるまちについては、「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせる」が 46.9%で最も高く、次いで「自分に合ったサポート（医療や福祉サービス等）を受けることができる」が 34.4%、「不安や困りごとを相談できる体制がある」が 31.3%となっています。



【「その他」の内容】

よく分からない。

支えてくれる家族がいること

現状の生活に満足している。

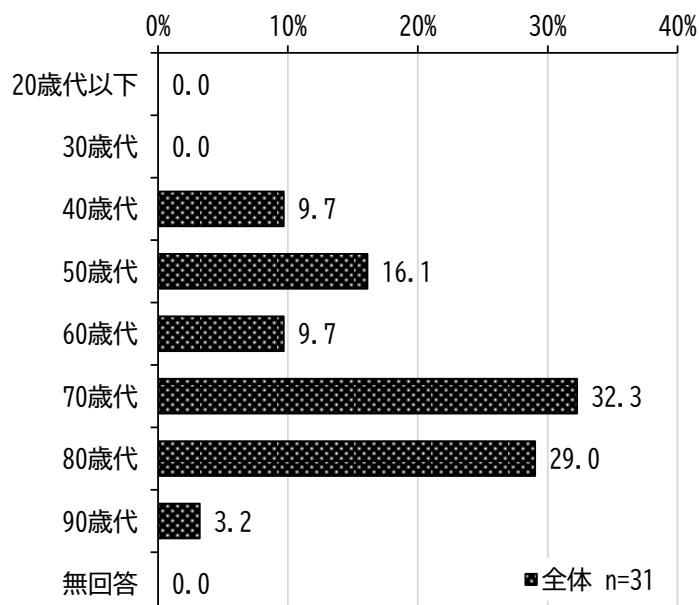
問9 その他（市に望むことや、やりたいこと、辛いこと、助かったことなど）

市に望むこと
市に望むことは特になし。
市に望むことは、自分の状態に合った生活の場（介護施設等）を確保してほしい。老人ホームに入りたい。
市に望むことは、困っている人を助けてほしい。助かったことは、話を聞いてくれる人（CW）がいること。気にかけてくれていると感じる。
やりたいこと
年代別の集まりがあったら良い。
自治組織の活動が活発になってほしい。
小さな集まり、場所がたくさんあると良い。市の施設は手続や決まりが難しい。家族以外と話すことや自宅以外での時間が必要で大切。
自分に合ったデイサービスに通い、自分の興味があることをやっている。
自分の年齢や体力に合った仕事をしたい。
創作活動ができる時間を確保したい。
歌や卓球など好きなことをしたい。
辛いこと
家族となかなか会うことができない。
体調が良くないこと。
家の片付けをしてほしい。
友人がいなくなって話す人がいない。いろいろな不安について同年代と話したい。
助かったこと
経済的な支援が受けられていること。
見守りが行き届いている。相談に乗ってくれる。市役所にも行きやすい。

2 認知症アンケート調査【家族調査】

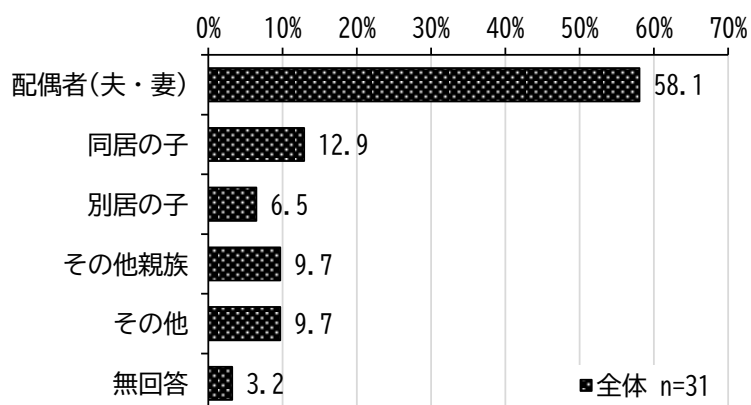
問1 現在のあなたの年齢を教えてください。(1つのみ)

年齢については、「70 歳代」が 32.3%で最も高く、次いで「80 歳代」が 29.0%、「50 歳代」が 16.1%となっています。



問2 あなたと本人の続柄を教えてください。(1つのみ)

あなたと本人の続柄については、「配偶者(夫・妻)」が 58.1%で最も高く、次いで「同居の子」が 12.9%、「その他親族」が 9.7%となっています。



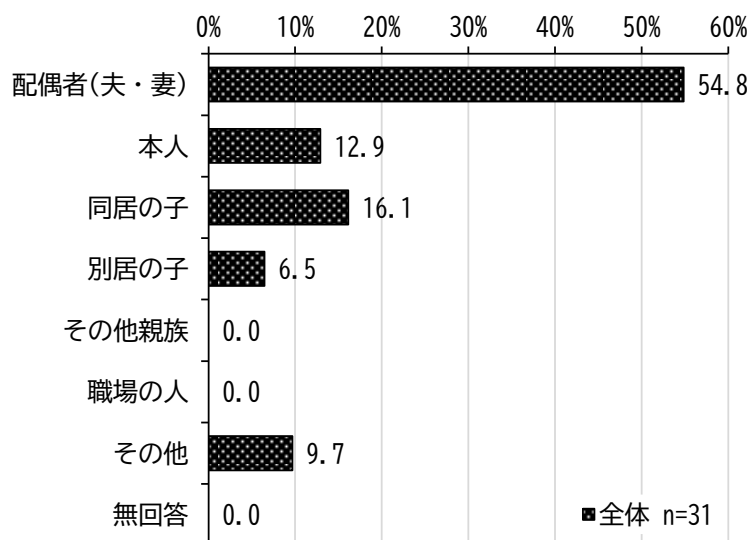
【「その他」の内容】

同居の弟

父

問3 最初に本人を認知症かもしれないと気付いた人は誰ですか。(1つのみ)

最初に本人を認知症かもしれないと気付いた人については、「配偶者(夫・妻)」が 54.8%で最も高く、次いで「同居の子」が 16.1%、「本人」が 12.9%となっています。



【「その他」の内容】

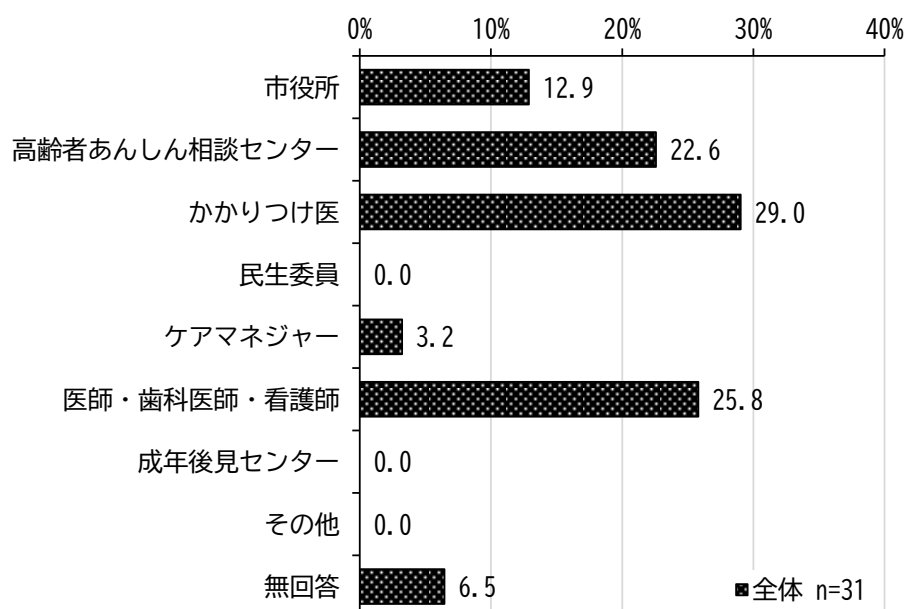
担当医

通院先の医師

親せき

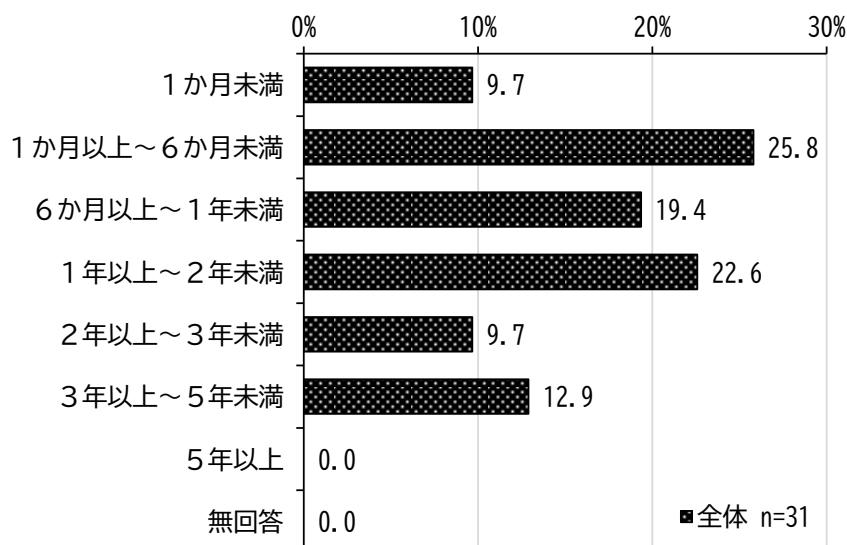
**問4 家族、親せき、友人、以外で、最初に認知症について相談したところはどこですか。
(1つのみ)**

家族、親せき、友人、以外で、最初に認知症について相談したところについては、「かかりつけ医」が29.0%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が25.8%、「高齢者あんしん相談センター」が22.6%となっています。



問5 あなたや周囲の人が変化に気づき、認知症でないかと疑い始めてから最初に医療機関を受診するまでにかかった期間はどのくらいですか。(1つのみ)

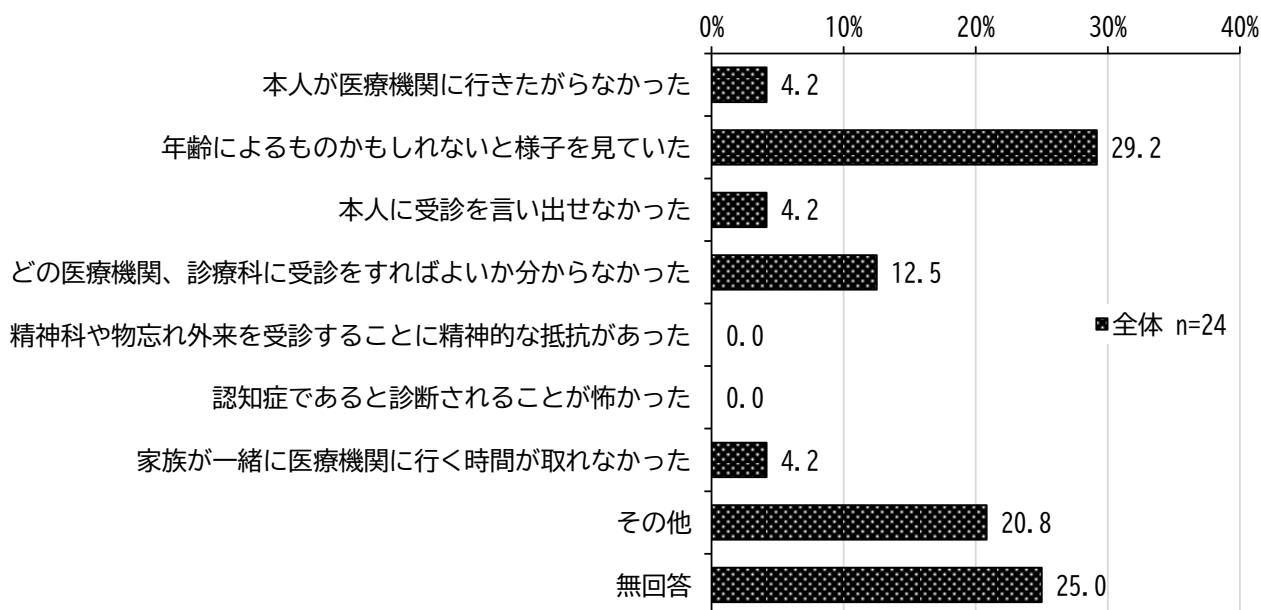
最初に医療機関を受診するまでにかかった期間については、「1か月以上～6か月未満」が25.8%で最も高く、次いで「1年以上～2年未満」が22.6%、「6か月以上～1年未満」が19.4%となっています。



【問5において「1か月以上～6か月未満」「6か月以上～1年未満」「1年以上～2年未満」「2年以上～3年未満」を選択した方へ質問します。】

問6 その最も大きな理由は何ですか。（1つのみ）

受診するまでにかかった期間の理由については、「年齢によるものかもしれない様子を見ていた」が29.2%で最も高く、次いで「どの医療機関、診療科に受診をすればよいか分からなかった」が12.5%、「本人が医療機関に行きたがらなかった」「本人に受診を言い出せなかった」「家族と一緒に医療機関に行く時間が取れなかった」がともに4.2%となっています。



【「その他」の内容】

毎月通院していたのでその時に。

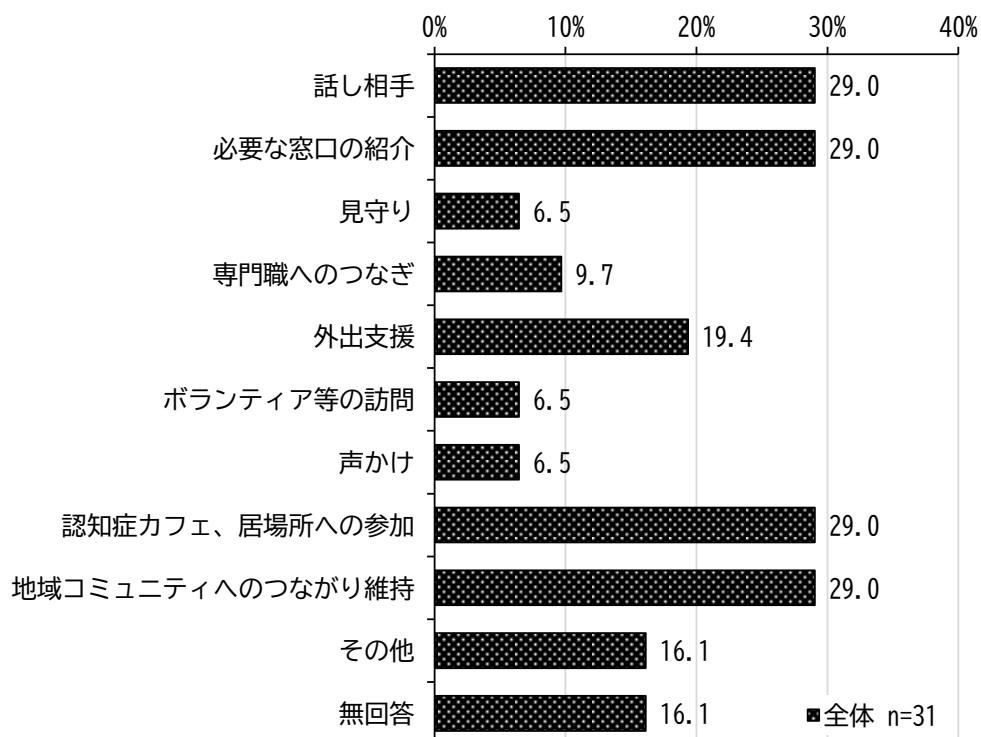
かかりつけ医が良いかと思いましたが、認知症について具体的なことも聞いてからと思った。

脳神経外科でMRIを撮ったが、医師から「年相応」と言われ、専門の治療につながらなかった。

高次脳機能障害があったため様子を見ていた。

問7 現在、あなたが利用したい支援はなんですか。(いくつでも)

利用したい支援については、「話し相手」「必要な窓口の紹介」「認知症カフェ、居場所への参加」「地域コミュニティへのつながり維持」がともに 29.0%で最も高くなっています。



【「その他」の内容】

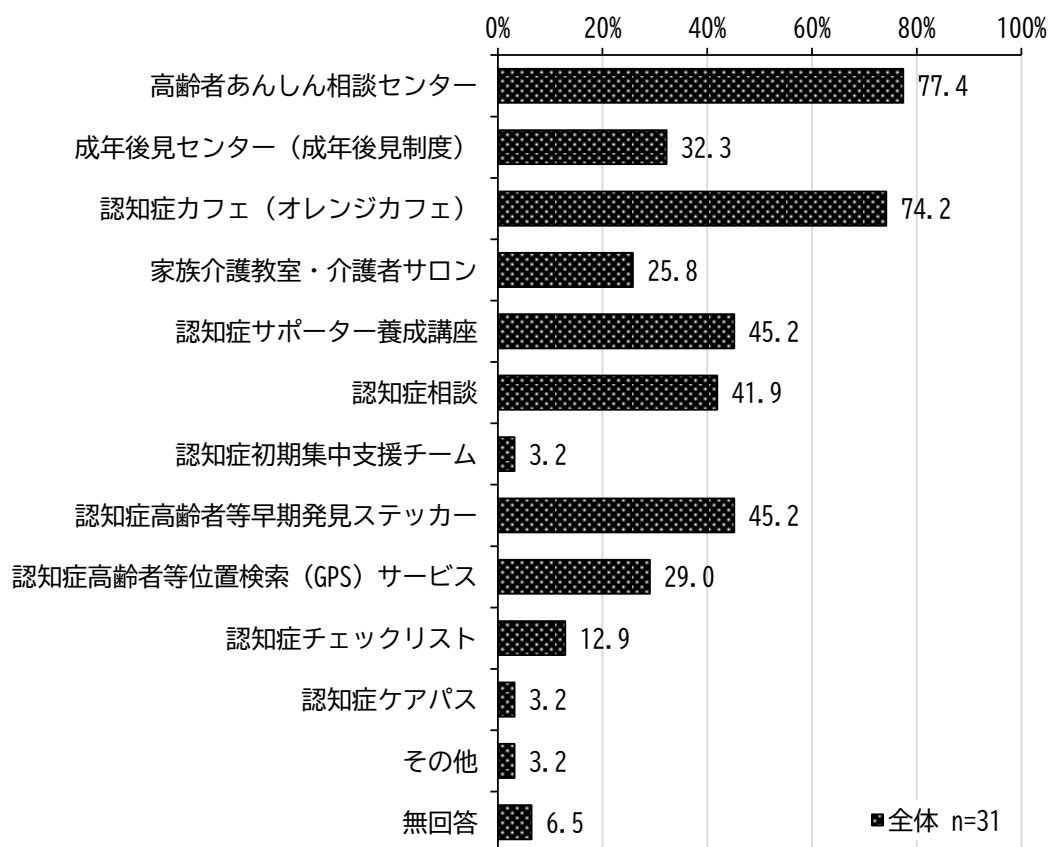
気軽に使うことのできる位置特定用識別情報送信装置（スマートタグ）の配付

デイサービス

経済的な支援

問8 市で実施している認知症支援で知っているものはどれですか。(いくつでも)

市で実施している認知症支援で知っているものについては、「高齢者あんしん相談センター」が77.4%で最も高く、次いで「認知症カフェ（オレンジカフェ）」が74.2%、「認知症サポーター養成講座」「認知症高齢者等早期発見ステッカー」がともに45.2%となっています。

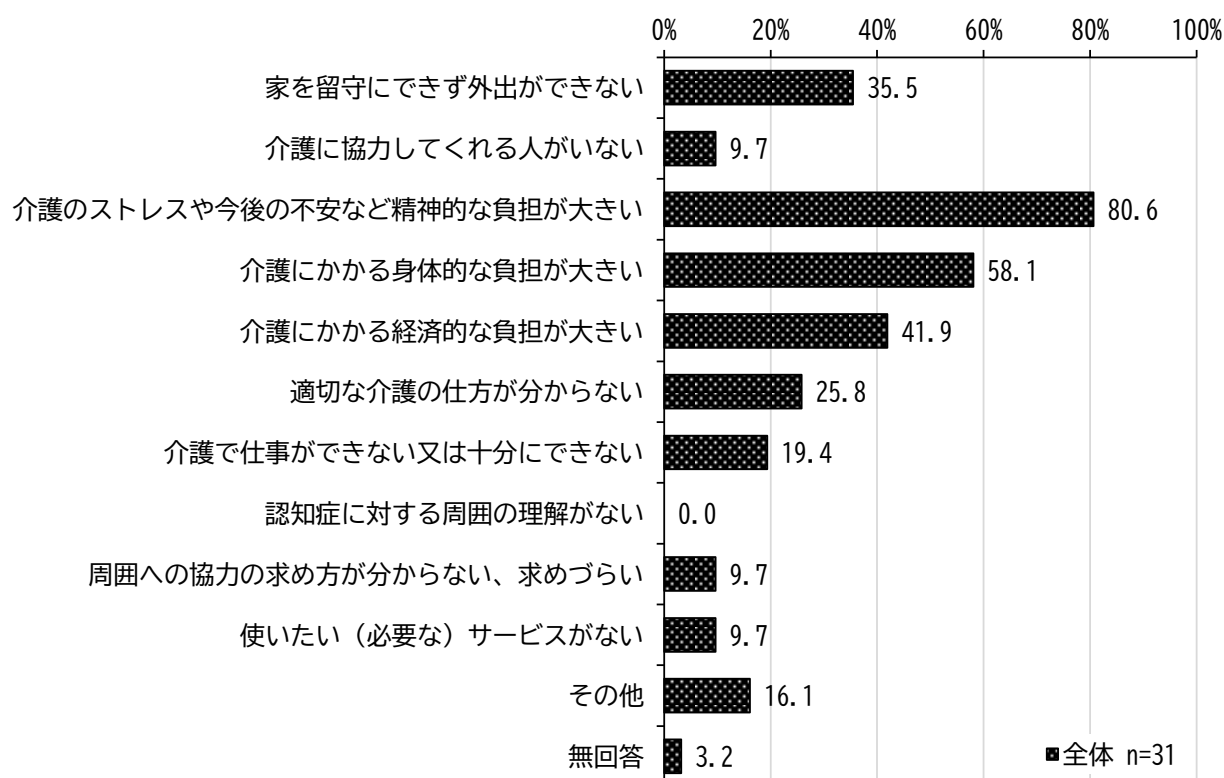


【「その他」の内容】

ふじみん見守りネット（ふじみ野市高齢者見守りネットワーク事業）

問9 認知症の方を介護していて困ることはなんですか。(いくつでも)

介護していて困ることについては、「介護のストレスや今後の不安など精神的な負担が大きい」が80.6%で最も高く、次いで「介護にかかる身体的な負担が大きい」が58.1%、「介護にかかる経済的な負担が大きい」が41.9%となっています。



【「その他」の内容】

認知症の本人を家に残しておくこと。また、その間の食事にも不安がある。

介護サービス等支援を利用するための契約手続きがわずらわしい。

介護サービスの拒否

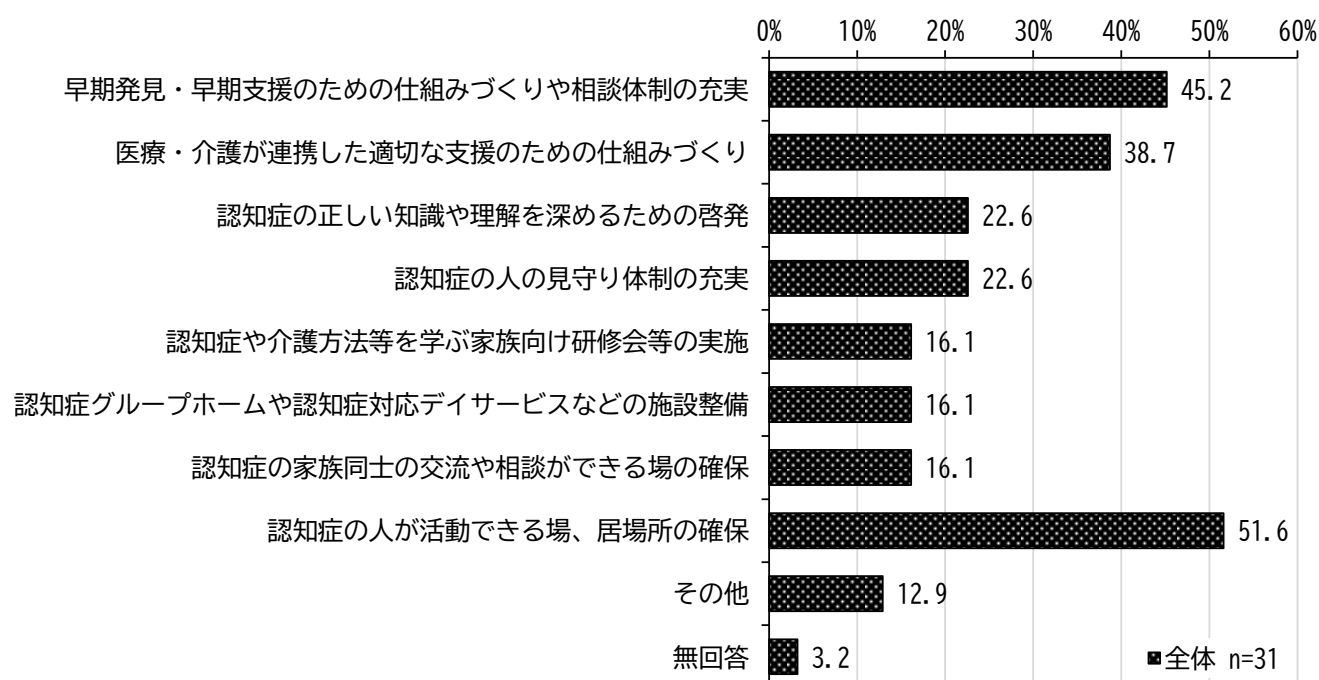
「物を隠して場所を忘れ、見つかるまで探す」「部屋に鍵をかけ食事にも出てこない」「夕方になると出て行こうとする」「昼夜逆転や特定の家族への嫌悪」などの行動に困っている。

介護者が体調を崩したときに、「どうなるのだろう」という漠然とした不安がある。

勧誘や詐欺

**問 10 認知症の方の支援を進める上で、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。
(3つまで)**

認知症の方の支援を進める上で、重点を置くべきことについては、「認知症の人が活動できる場、居場所の確保」が 51.6%で最も高く、次いで「早期発見・早期支援のための仕組みづくりや相談体制の充実」が 45.2%、「医療・介護が連携した適切な支援のための仕組みづくり」が 38.7%となっています。



【「その他」の内容】

多様性のあるどんな人でも利用しやすい施設

認知症の人が働ける場

通院時の移動手段

近隣での支援ネットワーク

問 11 自由意見(ご家族が認知症と分かったときの気持ちやこれまで助かった支援、今後の希望など)

介護負担や将来への不安について

64 歳で認知症を発症後、薬を服用しながら 67 歳まで勤務した。家族も就労を続けながら、運動や趣味、老人会活動などを一緒にやってきたが、介護による家族の心身の負担も大きく、施設入所も頭をよぎる。今後の生活に迷いが生じている。(70 歳代/配偶者(夫・妻))

いつ終わるかわからない先への不安があり、本人か、自分のどちらが先に限界を迎えるのかわからない。在宅介護である限り介護者の心労は変わらないと感じている。このアンケートが本当に役立つのか疑問である。(50 歳代/その他親族)

認知機能低下症と診断後、家族で外出や運動、脳トレなどを続けながら 9 年間在宅で支えてきたが、症状の進行により対応が難しくなり、高齢者あんしん相談センターを通じて介護認定や各種サービスにつながった。行方不明や妄想、暴言への対応、通院や入浴介助など介護負担は大きく、施設入居の時期について悩みを抱えている。(70 歳代/配偶者(夫・妻))

母親と同じ症状で、発症は母より 5 年早かった。母はグループホームで 10 年過ごした。そばで関わることで進行を遅らせたいと思ってきたが、残念ながら症状は進んでいる。(60 歳代/配偶者(夫・妻))

突然の診断に戸惑う中、地域包括支援センターや公的支援の活用につながった。認知症に加え他の病気も進行し介護は大変で、老老介護として自身の今後や対応への不安を抱えている。(70 歳代/配偶者(夫・妻))

相談先や支援体制について

令和 6 年 12 月に認知症の診断を受け、ケアマネやデイサービスまでワンストップで支援を受けられた。通院やサービス探しを家族が個別に行うことは、慣れていない中ではとても難しい。安心して相談できる窓口があると良いと感じた。(60 歳代/同居の子)

介護による疲れや不安があり、話を聞いてくれる人の存在が支えとなっている。病気のある家族と今後どのように向き合えばよいか悩む中、関係機関の多くの支援者の協力が介護を続ける力となった。認知症への社会的理解は進んでいるものの、今後は一人で抱え込まず、地域の協力が必要だと感じている。(80 歳代/その他)

パソコン操作の違和感から受診し「物忘れ初期」と診断され、日常生活に支障なく 10 年が経過した。その後、妻の手術をきっかけに介護保険を申請し、地域包括支援センターの存在を知ったが、もっと早く知っておけばよかったと感じている。(70 歳代/配偶者(夫・妻))

母親が認知症とわかり将来への不安を感じたが、地域包括支援センターの職員を通じてケアマネジャーや各種支援につながり、困りごとに対応できた。今後を見据え、若い世代にも認知症への理解を広げる必要性を感じている。(50 歳代/その他親族)

習い事の場所が分からなくなったことや、計算ができなくなったことなどから異変を感じ始めた。自分の意思と関係なく指が震えたことに不安を覚え、家族や地域包括支援センターに相談し、病院やサービス利用につながった。身近な相談先や他者の経験が支えとなり、老老世帯として近所との助け合いも大切にしながら、できるところまで介護を続けたいと考えている。(70 歳代/配偶者(夫・妻))

認知症の症状を家族が冷静に判断することは難しく、わかりやすく正しいアドバイスを望んでいる。介護者の性格によっても必要な支援は異なるため、専門的な視点で丁寧な対応を求めている。(70 歳代/その他)

早期受診について
認知症の治療薬は進歩している一方、診断や服薬に対する本人の心理的抵抗や劣等感への配慮が十分でないと感じている。高齢者は固定観念が強く、医療機関や家族だけで受診や服薬につなげることが難しい場合があり、結果として有効な治療開始が遅れることがある。時間を要する課題ではあるが、「早期受診の重要性」がより広く理解されると良い。(40 歳代／同居の子)
認知症とわかった際は予想していた思いがあり、薬の効果も判断が難しく家族で決める状況に戸惑いを感じている。現在は様子を見ているが、家族会に参加し他の人の話を聞くことで、今後の見通しが立ち助けられている。(70 歳代／配偶者（夫・妻）)
父の変化に最初に気付いたのは家族であったが、本人が受診を認めず診断までに時間を要した。別の病気をきっかけに検査を受け、アルツハイマー型認知症と診断され、主に母が在宅で介護を行った。後にデイサービスやヘルパーを利用したが、生活の質を考えると、ただ好きなものを食べて、好きな時に寝てという生活でよかったのかなと感じている。発病後に一度だけ家族旅行ができたことが、良い思い出として残っている。(70 歳代／その他)
サービスの利用について
年齢が比較的若く、本人はデイサービスを「年寄りの場所」と捉えて拒否しており、要介護1で判断力もあるため納得しないと利用が難しい。仕事を辞めたため日中過ごせる場が必要で、土日祝に利用できるオレンジカフェ等があると嬉しい。妄想への対応も負担が大きく、本人に合った施設をケアマネに見つけてもらえると有難い。(40 歳代／無回答)
市報などで支援の場があることは知っていたが、夫から目を離す不安があり、預けたり代わりに見てもらう選択はできなかった。介護への負担感はなかったものの、立ち座りの介助で腰を痛めたことをきっかけに介護サービスを利用し、感謝している。本人と家族が一緒に楽しく過ごせる場や制度が増えると良い。(80 歳代／配偶者（夫・妻）)
日常生活や地域について
徘徊への対応として、携帯電話での位置確認、マンションの玄関ドアに開けると音が鳴る装置を設置、衣類には住所や氏名を記載した。症状は進行したが、その対策により遠方まで行ってしまった際もタクシーで無事帰宅できた。(80 歳代／配偶者（夫・妻）)
認知症家族会への参加を通じて情報を得ることができ、ケアマネジャーや行政、事業所との連携により、非常時対応の体制を整えることができた。(80 歳代／配偶者（夫・妻）)
認知症により生活が当事者優先へと変化した。介護者自身の時間や交流も必要だと感じている。そのため、オレンジカフェや地域のつながりの重要性を感じている。(40 歳代／別居の子)
家族に認知症があることを近所にも伝え、理解を得ながら、一人で抱え込まず困った時は相談し、地域の協力を得ることが大切だと感じている。(80 歳代／配偶者（夫・妻）)
実家から遠方（東北）に住んでおり、見守りや通院支援のための訪問時に交通費の負担が大きい。費用面での支援があると良い。(50 歳代／別居の子)
今のところは大きな心配はなく、自身が元気で娘の支えもあるため安心している。認知症の夫は短期記憶障害はあるが日常生活に支障はない。将来の体調悪化に不安があるものの、高齢者あんしん相談センターとつながっているため安心している。(80 歳代／配偶者（夫・妻）)

第IV部 資料編（使用した調査票）

■本人調査票

ヒアリングシート【本人】

年齢（ ）歳	性別（男 ・ 女 ・ その他）	同居家族（ ）人
要介護認定（ ）	実施日 年 月 日	面接者

要 旨
1 日々の中で感じる生活のしづらさ、不安や困りごとがありますか。 (1) はい（内容） (2) いいえ 2 身近に何でも気軽に相談できる人はいますか。 (1) はい （どこの誰） (2) いいえ 3 周りの人に自分の気持ちや意見を言うことはできますか。 (1) はい （周りの人にその気持ちや意見を聴いてもらえていますか。） (2) いいえ 4 日頃から楽しんでいる趣味や活動などがありますか。 (1) はい（どのような趣味や活動ですか。） それを生かすことができる機会や場所がありますか。 (2) いいえ 5 地域の中で役割や生きがいがありますか。 (1) はい (2) いいえ（どのようになれば役割や生きがいができますか。） 6 自分に合ったサポート（医療や福祉サービス等）を受けることができますか。 (1) はい (2) いいえ（理由）

7 地域の支えとしてあったらいいなと思うものはありますか。（○印はいくつでも）

- (1) 話し相手 (2) 声かけや見守り (3) 外出の付添 (4) 買い物や家事の手伝い
(5) 同年代の人が集い気軽に立ち寄り交流できる場 (6) 災害時などの安否
(7) その他（ ）

8 認知機能が低下したとしても、安心して暮らせるまちとは、どのようなまちですか。（○印はいくつでも）

- (1) 認知機能の低下による物忘れのことについて正しい知識が普及されている
(2) 不安や困りごとを相談できる体制がある
(3) 自分に合ったサポート（医療や福祉サービス等）を受けることができる
(4) 自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせる
(5) 見守りや声かけなど地域における支え合いがある
(6) 認知機能の低下や介護が必要な状態になっても社会での役割や生きがいを持って活動できる機会や場所がある
(7) その他（ ）

9 その他（市に望むことや、やりたいこと、辛いこと、助かったことなど）

■家族調査票

アンケート調査（家族）

【調査へのご協力のお願い】

日頃より、ふじみ野市の高齢福祉行政にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、「第10期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（令和9～11年度）」と併せて「認知症施策推進計画」を策定することとなりました。

策定に当たり、認知症の方の介護を経験した皆様のご要望や市に対するお考えをおうかがいするアンケート調査を行うことになりました。

皆様からいただきました回答は、統計的に処理し、有効に活用させていただきます。

お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

令和7年2月

ふじみ野市長 高 畑 博

記入に際してのお願い

1. 回答は、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。回答数は、各設問文に（○印は1つ）（○印はいくつでも）など指定してありますので、それに従って回答してください。また、その他（ ）などの（ ）には、具体的な内容を記入してください。
2. 設問によっては、該当する設問の番号に○印をつけた方だけに回答いただく設問がありますので、その説明に従って記入してください。
3. 記入いただいた調査票は、 月 日（ ）までに、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに返送してください。
4. 集計結果は、まとまり次第市ホームページ等で公表します。
5. 不明な点は、下記まで連絡ください。

ふじみ野市福祉部高齢福祉課地域支援係

電話（049）262-9038（直通）

FAX（049）261-7621



ふじみ野市 PR 大使
『ふじみん』

アンケート調査【家族】

問 1 現在のあなたの年齢を教えてください。(○印は1つ)

1. 20 歲代以下	2. 30 歲代	3. 40 歲代	4. 50 歲代
5. 60 歲代	6. 70 歲代	7. 80 歲代	8. 90 歲代

問2 あなたと本人の続柄を教えてください。(○印は1つ)

1. 配偶者(夫・妻)	2. 同居の子	3. 別居の子
4. その他親族	5. その他(具体的に:)	

問3 最初に本人を認知症かもしれないと気付いた人は誰ですか。(○印は1つ)

1. 配偶者(夫・妻)	2. 本人	3. 同居の子
4. 別居の子	5. その他親族	6. 職場の人
7. その他(具体的に:)		

問4 家族、親せき、友人、以外で、最初に認知症について相談したところはどこですか。
(○印は1つ)

1. 市役所	2. 高齢者あんしん相談センター
3. かかりつけ医	4. 民生委員
5. ケアマネジャー	6. 医師・歯科医師・看護師
7. 成年後見センター	8. その他（具体的に

問5 あなたや周囲の人が変化に気づき、認知症でないかと疑い始めてから最初に医療機関を受診するまでにかかった期間はどのくらいですか。(○印は1つ)

1. 1か月未満	2. 1か月以上～6か月未満
3. 6か月以上～1年未満	4. 1年以上～2年未満
5. 2年以上～3年未満	6. 3年以上～5年未満
7. 5年以上	

【問4において「2.」「3.」「4.」「5.」を選択した方へ質問します。】

問6 その最も大きな理由は何ですか。（○印は1つ）

1. 本人が医療機関に行きたがらなかった
2. 年齢によるものかもしれない様子を見ていた
3. 本人に受診を言い出せなかった
4. どの医療機関、診療科に受診をすればよいか分からなかった
5. 精神科や物忘れ外来を受診することに精神的な抵抗があった
6. 認知症であると診断されることが怖かった
7. 家族と一緒に医療機関に行く時間が取れなかった
8. その他（具体的に _____）

問7 現在、あなたが利用したい支援はなんですか。（○印はいくつでも）

- | | | |
|---------------------|----------------------|---------------|
| 1. 話し相手 | 2. 必要な窓口の紹介 | 3. 見守り |
| 4. 専門職へのつながり | 5. 外出支援 | 6. ボランティア等の訪問 |
| 7. 声かけ | 8. 認知症カフェ、居場所への参加 | |
| 9. 地域コミュニティへのつながり維持 | 10. その他（具体的に： _____） | |

問8 市で実施している認知症支援で知っているものはどれですか。（○印はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 高齢者あんしん相談センター | 2. 成年後見センター（成年後見制度） |
| 3. 認知症カフェ（オレンジカフェ） | 4. 家族介護教室・介護者サロン |
| 5. 認知症サポーター養成講座 | 6. 認知症相談 |
| 7. 認知症初期集中支援チーム | 8. 認知症高齢者等早期発見ステッカー |
| 9. 認知症高齢者等位置検索（GPS）サービス | 9. 認知症チェックリスト |
| 10. 認知症ケアパス | 11. その他（具体的に _____） |

問9 認知症の方を介護していて困ることはなんですか。（○印はいくつでも）

1. 家を留守にできず外出ができない
2. 介護に協力してくれる人がいない
3. 介護のストレスや今後の不安など精神的な負担が大きい
4. 介護にかかる身体的な負担が大きい
5. 介護にかかる経済的な負担が大きい
6. 適切な介護の仕方が分からない
7. 介護で仕事ができない又は十分にできない
8. 認知症に対する周囲の理解がない
9. 周囲への協力の求め方が分からない、求めづらい
10. 使いたい（必要な）サービスがない
11. その他（具体的に _____）

問10 認知症の方の支援を進める上で、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。

(○印は3つまで)

1. 早期発見・早期支援のための仕組みづくりや相談体制の充実
2. 医療・介護が連携した適切な支援のための仕組みづくり
3. 認知症の正しい知識や理解を深めるための啓発
4. 認知症の人の見守り体制の充実
5. 認知症や介護方法を学ぶ家族向け研修会等の実施
6. 認知症グループホームや認知症対応デイサービスなどの施設整備
7. 認知症の家族同士の交流や相談ができる場の確保
8. 認知症の人が活動できる場、居場所の確保
9. その他（具体的に ）

問 11 自由意見（ご家族が認知症と分かったときの気持ちやこれまで助かった支援、今後の希望など）

**ふじみ野市
認知症ヒアリング調査
【結果報告書】**

令和8年3月

発行：ふじみ野市

編集：ふじみ野市 福祉部 高齢福祉課

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡一丁目1番1号

電話：049-262-9038（直通）